

a secret makes a woman woman...

～女は秘密を着飾って美しくなる～

G 9 齋藤 彩夏

☆目次

- 1 インタビューするにあたり
 - 1-1 出会い ～4月～
 - 1-2 授業中 ～助っ人～
 - 1-3 お洒落 ～nice アドバイス～
 - 1-4 右側… ～安心～
 - 1-5 バイト ～頑張る子～
 - 1-6 最近は ～以心伝心!?!～
- 2 インタビュー結果
 - 2-1 好 ～かもめろ!?!～
 - 2-2 傷 ～パッキリ!～
 - 2-3 楽 ～ニヤハ♪～
 - 2-4 肉 ～No Reason～
 - 2-5 技 ～たいして習得したモノないぜ～
 - 2-6 決 ～not 優柔不断～
 - 2-7 凜 ～生きよう～
 - 2-8 癖 ～AHA (・∀・)～
 - 2-9 西 ～バルセロナ～
- 3 インタビューを終えて…
- 4 日本事情Ⅱを振り返って

1 インタビューするにあたり

1-1 出会い ～4月～

杏ちゃんは私と同じ生命化学科で、今年の4月に会いました。最初はあまり一緒にいることはなかったのですが、いつのまにか同じ学科の祐子ちゃんを通して話すようになり、今ではいつも一緒にいます。杏ちゃんの第一印象はとてもクールで近寄りがたいような感じでしたが、いろいろ話してみると冗談も結構言うしおもしろくてかわいい人でした。

1-2 授業中 ～助っ人～

杏ちゃんは頭がよく、授業のときによく隣にいて助けてくれます。授業中に私が寝ていると私のノートに板書してくれたり、問題でわからない時があったりすると教えてくれます。本当に毎日のように助けられているので、杏ちゃんがいないと私は大変なことになっ

ていると思います。

1-3 お洒落 ～nice アドバイス～

また杏ちゃんは服などのオシャレのセンスがよく、いつも素敵です。誕生日にももらったネックレスはかわいくて、とても気に入っています。私は優柔不断でいろいろ迷うのですが、杏ちゃんと買い物に行くと、服やアクセサリなどで迷ったときに、いつもいいアドバイスをくれます。

歌もとてもうまく、初めてカラオケに一緒に行ったときは驚きました。私は、好きだけど自分ではなかなか歌えない難しい歌を杏ちゃんにリクエストすると、歌ってくれます。

1-4 右側… ～安心～

杏ちゃんは私の右側にいます。右側は心臓から遠いので、自分の左側に人がいるよりも、右側にいたほうが安心するそうです。そのため、杏ちゃんはなるべく人の右側にいるようにしていて、私の隣にいるときはいつも右側にいます。授業中はもちろん、普通に歩いているときも、買い物しているときも、いつも右側です。そのため、私は自分の左側に人がいると落ち着かなくなり、お母さんや他の人と歩くときは右側にいてもらうようになりました。杏ちゃんは私にとってそれほど影響力のある人です。

1-5 バイト ～頑張る子～

杏ちゃんは頭の良さを活かし、塾の講師のアルバイトをしていて小学生や中学生に勉強を教えています。高校受験を控えた中学校3年生にも教えていて、自分の勉強も大変なのにその子のために自分の時間を削り、頑張っています。最近、巫女さんのアルバイトも始めてとても忙しい毎日を過ごしていますが、授業を遅刻したり休んだりすることなく課題もテストもきちんとこなしている、しっかりした人です。私はバイトをしていなくて週に3回のサークルしかないのに、課題などを私よりも忙しい杏ちゃんに助けてもらえばなしです。

1-6 最近の ～以心伝心!?!～

毎日のように一緒にいるせいか、最近をよく2人同時にまったく同じことを話さずようになりました。結構長い言葉がかぶることもあり、お互いにビックリして思わず笑ってしまいます。考えていることが同じなのかな～とも思いますが、やはり私のほうが中身は子供っぽく、杏ちゃんに突っ込まれることもよくあります。

そんな杏ちゃんですが、まだまだ知らない部分もたくさんあると思うので、この授業のインタビューなどを通して新たな一面を見つけられたらいいなと思います。

2, インタビュー結果

日時：12月17日（水）

相手：三瓶杏（杏ちゃん）

場所：学生会館

時間：13：00～14：00

★ 彩：彩夏（自分） 杏：杏ちゃん

2-1 好 ～かもめろ!?～

彩：「んじゃ、始めるね。」

杏ちゃんの好きなタイプは？」

杏：「常識のある人！これは最低条件で、あとは消息のわかる人かな？」

彩：「消息って…？」

杏：「連絡のとれる人。」

彩：「なるほど。好きな女の人のタイプは？」

杏：「声かな…あと匂い！匂いフェチだから。」笑

彩：「よく匂い嗅ぐもんね。」笑

杏：「あと、男も女もたれ目でカモメ口がいい。」

中島さんもたれ目でもめ口じゃん。」

彩：「杏ちゃんって中島美嘉好きだよね～。デビュー当時から好きだったの？」

杏：「いや、中1の終わりくらいからかな…」

彩：「なんかきっかけとかあったの？」

杏：「ひよんなことでね」

彩：「ひよん??」笑

杏：「部活の尊敬してる先輩が中島さんに似てたんだ～」

彩：「そうなんだ～。化粧品も中島さんがCMやってるKATEしか使っていないよね。」

杏：「中島さんの信者だから。笑

あきっぱいのに、中島さんは特別！ずっと飽きないし。」

彩：「ファンクラブにも入ってるんだよね。」

杏：「うん。中2の10月31日に入ったよ。」

彩：「すごいね。さすが信者。」笑

2-2 傷 ～パッキリ!～

彩：「そういえば、ブログのプロフィールに一番痛かったことでおでこを縫ったことって書いてあったけど、怪我したの？」

杏：「うん。幼稚園の時、友達に笑いながら叩かれて、その頃弱かったからそのまま倒れて、おでこパッキリ！ビックリした！！」

彩：「それで縫ったんだ！大変だったね。」

あと、必殺技にフリースルーって書いてたけど、フリースルーってなに？」

杏：「あえての完全無視！」笑

彩：「その必殺技はいつ使うの？」

杏：「祐子ちゃんと話してて、祐子ちゃんがわけわかんないこと言ったとき。笑でも、必殺技が全く効かないのが毛虫！アタシの天敵！」

彩：「毛虫そんなに苦手なんだ～」

杏：「毛虫はマジやばい。見ると半泣きだし、パニックになる。」

彩：「いつか毛虫に勝てたらいいね。」

杏ちゃんには座右の銘とあってある？」

杏：「あるよ。『雉も鳴かずに撃たれまい』ってやつ。」

彩：「それはどういう意味なの？」

杏：「なんかの時に雉が鳴いて殺されたって話で、簡単に言うと余計なことは喋らないようにしよう！みたいな??」

彩：「おお～」

杏：「これは中1のときに心に決めた。」

彩：「すごいね。アタシは座右の銘と特にないな～」

2-3 楽 ～ニヤハ♪～

彩：「そういえば聞いたときないけど、杏ちゃんの趣味は？」

杏：「う～ん…カラオケとか、映画かな。あと寝ること！」

彩：「カラオケにはどのくらいのペースで行ってる？」

杏：「一緒に行ってるじゃん！！」笑

彩：「そうだね。2週間に1回は少なくとも行ってるよね？」

杏：「そうだね～暇があれば行ってるし。」

彩：「映画は映画館にみに行くの？」

杏：「みに行ったり、家でみる時もあるよ。」

彩：「どんな映画みるの？」

杏：「とりあえずいろいろ。」

彩：「オススメの映画はある？」

杏：「『きみにしか聞こえない』かな。」

あとは『未来予想図～アイ・シ・テルのサイン』、『天国は待ってくれる』とかかな。」

彩：「全部みたときないな～今度みてみるよ。」

2-4 肉 ～No Reason～

彩：「好きな食べ物とかは??」

杏：「肉！！あと桃。」

彩：「なんで好きなの？」

杏：「だっておいしいじゃん！笑

好きなものに理由なんてないし。」

彩：「まあね～。」

2-5 技 ~たいして習得したモノないぜ~

彩：「杏ちゃんって習いごといろいろやってたんだよね？何々やってたの？」
杏：「サックス、習字、ダンス、水泳、歌、ピアノ…かな。」
彩：「すごいね。アタシもピアノと水泳やってたけど、もし子供ができたら
ピアノと水泳はやらせたいんだよね～。とりあえず泳げないとかわいそうだし。」
杏：「アタシも水泳はやらせたい。あと、習字かな？」
彩：「ああ～。習字は小学校の授業で、習ってる子は全然違うしね。習ってる子
うらやましかったし。」
杏：「だからやらせたいかな。ピアノはアタシが唯一好きになれなかった習いごとだから
子供にもやらせないと思う。」
彩：「なるほど。」

2-6 決 ~not 優柔不断~

彩：「アタシは優柔不断だから、いろいろ迷うけど、杏ちゃんはあるまい迷わないよね？
あんまり迷ってるとこ見たときないし。なんで迷わないの？」
杏：「何に迷うの？迷わないし。」
彩：「おお。さすが杏ちゃん。」笑

2-7 凜 ~生きよう~

彩：「そんな杏ちゃんだけこれから目標は??」
杏：「おもしろい人になる！」
彩：「もう十分なってるよ。」笑
杏：「痩せる！」
彩：「それ以上痩せたらなくなっちゃうよ？」
杏：「じゃあね～…う～ん…早めに死にたい。」
彩：「え？そんな悲しいこと言わないで。」
杏：「生きててたいしいいいことないし。」
彩：「そう？いいことあるよ。」

2-8 癖 ~AHA (・▽・) ~

彩：「杏ちゃんの口癖は??」
杏：「『んあ————』とか『あは』とか『意味がプーだぞ』とかかな??」
彩：「確かによく言ってるね。メールでもよく『んあ————』ってくるし。
あと、杏ちゃん意外にモノマネもよくするよね？」
杏：「さかなクンです。そうです。マグロは、目が、真っ黒だからです。」
(さかなクンのまね)
彩：「さかなクンはよくやるよね。ガチャピンとかもやってるけど、あと誰の
モノマネできるの??」
杏：「瀬川瑛子とか美輪明宏かな？」
彩：「マジ？すごいな！アタシもなんかモノマネできるようになりたいな～。」

2-9 西 ～バルセロナ～

彩：「じゃあそろそろ最後の質問ね！」

杏：「うん。」

彩：「行ってみたい場所とかある？国とか…」

杏：「スペイン！！」

彩：「即答だね。なんでスペイン行きたいの？」

杏：「サグラダファミリアがあるから！」

彩：「いつか行く予定とかあるの？」

杏：「一緒行くって言ってたじゃん！」

彩：「そうだった！」笑

杏：「4年なったらね。」

彩：「お金貯めなきゃね！バイトしなきゃ。」

杏：「うん。」

彩：「…と言うわけでそろそろインタビュー終わるね。今日はありがと。」

3 インタビューを終えて…

今回杏ちゃんにインタビューをしてみて、質問に淡々と答えたり、迷うことがないなど、第一印象どおりクールな部分もあったけど、いきなりモノマネをしたり、毛虫にものすごく弱かったりと可愛らしくおもしろい一面も見れた。また、普段一緒にいても改めて聞くことのないような質問をいろいろすることができたので、インタビューしてよかったと思う。

4 日本事情Ⅱを振り返って

私がこの授業を受けたのは、シラバスに書いてある内容を見ておもしろそうだったからです。シラバスには留学生となべっこに行くなどの計画がかいてありましたが、今回先生が変わり、内容も変わってしまったのが残念でした。

でも、この授業は自由で楽しかったです。

巷で噂の SEXY GIRL

G 9 : 三瓶 杏

<目次>

1. インタビューをするにあたって
 - 1-1. インタビュー相手
 - 1-2. なぜ?
 - 1-3. 出会い
 - 1-4. 最近
2. インタビュー
 - 2-1. 巷で噂の SEXY GIRL
 - 2-2. NO TOMATO NO LIFE
 - 2-3. 迷い-葛藤
 - 2-4. *WARITO*
 - 2-5. GOAL
3. インタビューを終えて
4. 授業を受けて

1. インタビューをするにあたって

1-1. インタビュー相手

私がインタビューしたい相手は、清水祐子さんです。私と同じ学科の祐子ちゃんは、身長が170cmと高く、以前、定規で測ったところ、八頭身であることが発覚しました。156cmというごく平均的な身長な私には考えられない世界で、羨ましいです。また、祐子ちゃんは自分の意見がはっきりしているので、話していてとても気持ちがいい人です。

1-2. なぜ?

私と祐子ちゃんは、普段の会話で意見が合わないことが多く、よく喧嘩になりますが、私が今まで生きてきた中で、ここまで本音を言い合える友達に出会えたことは初めてなので、すごく新鮮で、毎日が楽しいです。喧嘩と言っても、大きなものではなく、後から考えてみれば、何で喧嘩をしたのか、それがわからないくらい、小さなものです。彼女の考えと私の考えは、そんな些細な違いもありながら、根本的に違うことも多々あり、それが私にはとても興味深いため、つい「なんで?」と聞いてしまいます。最近では、答えがわかっていることにも「なんで?」と言ってしまうほどです。それでも彼女は、私の質問すべてに、呆れながらもきちんと答えてくれます。そんな優しいところも、彼女の魅力の一つです。口先だけのお世辞を言う人たちとは違う彼女だからこそ、私は彼女を信頼しているし、彼女といると、安心します。

意見がぶつかって言い争っても、最終的には、お互いを否定するのではなく、きちんと認め合える、そんな関係だと、私は思っています。私が祐子ちゃんと出会ってから、まだ一年も経っていません。それにも関わらず、ここまで仲良くなれた彼女のことを、もっと知りたいと思い、今回、インタビューすることにしました。

1-3. 出会い

私と祐子ちゃんの出会いは、入学式の日、学科オリエンテーションです。入学前に行われた友達を作るイベントに参加した人たちは、入学式の日にはすでにグループお作っていました。イベントにまったく参加していなかった上に、人見知りも激しいため馴染むことができず、1人で座っていた私に、同じように一人で座っていた祐子ちゃんが話しかけてくれました。そんな私が、彼女とは、不思議とすぐに打ち解けられたのは、彼女の真面目で誠実な人となりのおかげだったのだろうと、今では思います。最初の日こそ、私に対して敬語を使っていた祐子ちゃんも、次の日から普通に接してくれて、それからは、自然と一緒にいるようになりました。

1-4. 最近

最近、同じく生命化学科の彩夏ちゃんと一緒に、祐子ちゃん改造計画を実行しています。祐子ちゃんの服装は、黒やグレーなどの落ち着いた色が多く、コートやカーディガンは前ボタンを全部閉めるという特徴があります。それでは、全体的に重い印象になってしまうということで、始めた計画です。祐子ちゃんは、外見の大人っぽさに比べ、中身はお茶目で面白い部分もある子なのに、外見で、近寄り難い印象を持たれがちです。服装などによって、印象も大きく変わるので、ぜひ祐子ちゃんには明るめの色の服を…と思っています。

そんな、本当の祐子ちゃんを、私が今回インタビューし、レポートにすることで、私だけでなく、今回日本事情Ⅱの講義を受けている他の人たちにも知ってもらいたいです。

2. インタビュー

※杏：杏（自分） 祐：祐子 彩：彩夏

インタビューの相手：清水祐子ちゃん

日時：平成20年12月17日(水)

場所：学生会館

2-1. 巷で噂の SEXY GIRL

杏：で、インタビュー。

祐：うん。

杏：何聞けばいいか考えたんだけど質問出て来ない；あ、そういえば最近、アイメイクに凝ってるよね。

祐：そう！これね、テーマがあるの。

杏：あ、そうなんだ。

祐：聞きたい？

杏：いや、特に。

祐：あのね、月曜日が“エキゾチック”で、昨日が“ピーチ系キュート”だった。身乗り出して話し始める祐子ちゃん。

杏：へえ…。じゃあ今日は？

祐：今日は、“いたずらな瞳”って感じ。

杏：なにソレ(笑)。明日とか明後日はどうするの？

祐：明日は…誘惑、とかにしたいんだよね。わかった!! “甘い誘惑”にしよう。

杏：どんどんセンスなくなってくんだけど…笑

祐：そんなことないよ。金曜日は“巷で噂の SEXY BOY”!!

杏：BOY じゃなくて GIRL だしね。

祐：そっか。じゃあ GIRL で。

祐子ちゃんは何故か満足気。

杏：やっぱ変だよ(笑)。変わってる。

祐：変わってないし。変じゃないし。

杏：嘘だー。

祐：ほんとだって。ちゃんと真面目にやってるよ。人と話すときだって、ウケ狙って変なことやったりしないし。

杏：狙ってなくて変なんだよ。

祐：それがわかんない。

杏：根本的なところが人とずれてるんだって。

祐：ずれてない！ほんとに、だってほんとに。

杏：まあいいや(笑)。次、いくね。

祐：うん。

2-2. NO TOMATO NO LIFE

杏：それじゃあ…好きなこと系聞くね。好きなタイプとかは？ある？

祐：んと…目は細いほうがいい？かも。ってか普通。優しそうな人とか、おもしろい人。

杏：なるほど。

祐：あと、度胸がある人かな。

杏：度胸、ね。じゃあ次は、好きな食べ物とかは？

祐：トマト！トマトが好き。

杏：あぁー…だね。なんで？

祐：飽きない。味がいいじゃん。甘くもなくすっぱくもなくしょっぱくもないから。

杏：どのくらい食べるの？

祐：今、冬だからね。あれば毎食。

目を輝かせてしゃべっていた。

杏：他は…色とか。

祐：黒が好き。白よりも。

彩：なんで選択肢がその2つなの？笑

杏：だよね(笑)。服も、黒系ばっかでしょ？

祐：かわいらしすぎるのはやなんだよね。

杏：明るい色は着ないの？

祐：着たい…ってかんじ……みたいな？笑

杏：曖昧だね(笑)

祐：私わりとでかいから。

杏：わりとじゃないし；着ればいいじゃん。

祐：目立つ服は着たくないなーと思って。ほんとはズボンがはきたい。

杏：はいてるじゃん、今。

祐：洋服屋さん行っても、合うサイズがないんだよね。

杏：足が長いから？

祐：わかんない。わりとでかいから。そして痩せてないから。

杏：痩せてるけどね。

彩：この間一緒に買い物行ったんだけど、アタシがはくとハーフ丈のショートパンツが祐子ちゃんが着たら、ホットパンツになってた(笑)。そんなに長いコートじゃないのに、コートにほとんど隠れちゃったの(笑)。

杏：そうなの!?

祐：うん；とりあえず、合うサイズがない。

祐子ちゃんは少し落ち込んでる様子だった。

2-3. 迷い-葛藤

杏：そっか。わかった。あとは…性格？意外と優柔不断だよな。

祐：そうかも。

杏：お昼は彩夏ちゃんと同じのにするよね。

祐：そうだね、最近は。

杏：なんで？

祐：自分で選ぶと後悔するかなーと思って。

杏：だからなんだ？

祐：うん。

2-4. WARITO

杏：その「一なーと思って」っていうのよく言うよね。口ぐせ？

祐：あつ、確かに。

びっくりしていた。

杏：ね。結構口ぐせ多くない？

祐：最近杏ちゃんとか彩夏ちゃんが言うのは、「一ればいいじゃん」だよ。

杏：うん。私たちも言うけど、祐子ちゃんの場合は、“いいじゃん”に変に力が入ってるから気になるんだよね。基本的に接続詞に力入れる。

祐：なんでだろ？

杏：あとは「って感じ…みたいなの？」とか。よくわかんない。

祐：自信ないときは、“って感じ”で、さらに自信がないときは“みたいなの？”がつく。

杏：じゃあすごい自信ないんだ(笑)。

祐：そう。「わりと」もよく使う。

杏：前それ指摘したら、「わりと」の使い方説明し出したよね。

祐：うん(笑)。使い方は知ってるよ!!って言われた(笑)。

杏：人とずれてるからね、そういうところが。

祐：真剣に話してるんだけどね。

杏：前に未希ちゃんに言われてたじゃん。「どうでもいいことを真面目に話す」って。

祐：そうそう。でもちょっとわかる。

杏：みんな納得してたもん。

祐：ね；

2-5. GOAL

杏：そろそろ最後の質問いい？

祐：いいよ。

杏：んー…目標とか聞きたい。

祐：目標はね、おばあちゃんになってもキレイでいたいなーと思って。

杏：また「一なーと思って」って言ったね。やっぱりよく言うよね。

祐：わりと、ね(笑)。

インタビュー終わり

3. インタビューを終えて

終始笑いが絶えないインタビューだった。祐子ちゃんは、メイクに毎日テーマをつけるなど、思っていた通りの、人とは違う変わった子で、それゆえに、私も仲良くなれたし、彼女に惹かれるのだと思った。

授業が始まってから、4ヶ月近くが経ち、授業に限らずいろいろな場面で祐子ちゃんについて知った。それにより、以前より祐子ちゃんを理解することができるようになり、喧嘩することもなくなった。しかし、だからといって以前の関係が悪かったわけではなく、口喧嘩になるほど言い合える関係があったからこそ、今では穏やかに意見をぶつけ合えるようになったのだと思う。

これから、大学生活を送っていく上で、祐子ちゃんについて初めて知ることは、まだまだたくさんあると思う。それを、1つ1つ見つけていけたら嬉しい。

4. 授業を受けて

シラバスに載っていたような、なべっこ活動等に興味を持って、授業を受けることに決めた。しかし、授業内容はシラバスとは全く違い、予想外のレポート制作で残念だったが、この授業によって何人かの留学生のみなさんと仲良くなることができたので、よかったと思う。

「Calorie off Boy～さとし～」

G9 関口尚木

目次

1. インタビュー相手について
 - 1-1 誰？
 - 1-2 彼の簡単な紹介
 - 1-3 彼について思うこと、魅かれること
2. インタビューで明らかにしたいこと
3. インタビュー結果
 - 3-1 インタビュー I
 - 3-2 インタビュー II
 - 3-3 インタビューを終えて
4. このクラスを振り返って

1. インタビュー相手について

1-1 誰？

私がインタビューする相手は同じ学科のさとしくんです。

1-2 彼の簡単な紹介

彼は秋田県能代市出身でお兄さんが一人いる。彼は小学生の頃、水泳とブラスバンドに励み、初めてテレビで仮面ライダーを見て衝撃を受けた。中学ではお兄さんの影響でテニス部に入部。高校からはサッカー部に入り、さらに学園祭のリーダー的な役割を務めた。大学では、前期のスポーツ教育でサッカーを選択し、共に爽やかな汗を流しました。大学に進学してからも音楽を続けているらしく、彼の部屋には格好いい楽器が置いてありました。しかし、彼が楽器を弾いているところを見たことがないので彼の腕前がどれほどなのかは全く知りません。また、彼は映画好きらしく、よく映画の話をして。彼が好きな映画は「スターウォーズ」シリーズだそうです。そして、彼を語る上で欠かせないのが彼が無類の仮面ライダー好きということです。もちろん、彼は秋田県出身なので秋田県のご当地ヒーロー「超神ネイガー」についても博識です。以前、大学英語Ⅱの授業で「超神ネイガー」のことについて取り上げたのですが、その時は頼もしい限りでした。彼の頭の中には仮面ライダー図鑑があり、歴代ライダーたちの特徴、乗っているバイク、さらには敵キャラの情報までもが載っています。そんな彼が仮面ライダーを語る時の表情はまるで少年のようで、その表情を見るたびに好きなものがあるということはいいことだな、と思います。

1-3 彼について思うこと、魅かれるところ

彼とは四月のグループワークで初めて会いました。彼の第一印象はチャラチャラしていきそうなイメージだったのですが、彼が高校生だった頃学園祭でリーダーを務めたという話を聞いて驚き、それと同時に彼がとても頼もしい男に思えてきました。また、彼とはスポーツ教育の授業でサッカーをしていたのですが、その時もチーム決めやみんなを引っ張っていくような言動がちらほら見受けられました。そして一緒にサッカーをして初めて気づいたことは彼が負けず嫌いだということです。彼が敵、味方のどちらでもサッカーをする姿は本気そのもので、特に彼が敵チームのときには「負けたくない」オーラがひしひしと伝わってきました。スポーツのときはとても熱くなる彼ですが、授業中などは私が気付かないところまでしっかり見ていて冷静に間違いを指摘してくれます。また、学校内で彼と歩いているときは、彼の友人に出くわすことが多々あり、その多さにびっくりします。それは教室移動のためのほんのわずかな時間なのに毎回といってもいいくらい彼は友人に出くわします。彼に聞いてみると、高校からの友達もいるそうですが、大学でもすぐに仲良くなったそうです。思い返してみると自分も彼とは知らないうちに仲良くなっていました。

このように、人をまとめることができるところや誰とでもすぐに仲良くできるところは自分にはないのでそういうところは羨ましくもあり、魅力的に感じる部分でもあります。

2. インタビューで明らかにしたいこと

なぜ彼に惹きつけられる人(友人)が多いのか。

3. インタビュー結果

3-1 インタビュー I

場所：アメニティ

日時：12/18(木) 13:00~14:00

インタビュー相手：さとし

傍聴者：ひろし

「んじゃインタビューするから答えて。そこのおかし自由に食べていいよ。」

おお。てかまずその前にテーマメモ間違ってる所あるし。俺がサッカーやってたのは高校のときで、中学の時はテニスやってた。ブラスバンドやってたのは小学生の時だしその時は水泳もやってた。でも「負けず嫌い」とか性格的なことは大体合ってると思う。自分でも負けず嫌いだって思うし。

「ごめんごめん。直しとく。ほんとちっちゃい頃から色々やってたんだ？」

まあねー。水泳始めたのは親に「水泳やっつけ」って言われたからなんだけど、多少は泳げるようになったからいいかな。楽器は小学生の頃興味あったから始めた。その流れで今部屋にベースあんだ。んでテニス始めたのは兄さんの影響かな。3コ上の。まああんまりうまくなかったから中学で辞めちゃったな。それで高校に入ってからサッカ―楽しそうだなーと思って始めた。基本的に体動かしてるほうが好きだから。

「へえー。さとの親はやりたいことやらせてくれたんだ。じゃあこれは厳しかったなーって思うところある？」

特にないなー。普通だと思う。「勉強しろ」とか「夜にあんまり出歩くな」とかは言われてたけど、それって普通じゃん。まあやりたい事やらせてくれたから不満とかはそんなになかったな。

「じゃあさ、さとしは一人暮らし始めてなんか変わったこととかある？」

そりゃあるよ。尚木もわかるっしょ。まず家事やんなくちゃいけないし、お金のことも自分でやりくりしなきゃいけないじゃん。でもとにかく気をつけてんのは健康だな。最近夜は春雨食べてる。春雨はうまいしカロリーも少ないから重宝してる。しかもさー、昼は学食じゃん？んで学食で食べるとレシートにカロリー書いてあつから余計気になるんだよ。あー痩せてー。

「それ以上痩せたら余計寒くなるって。いきなり話変わるけど仮面ライダーの素晴らしいところって何？」

カッコいい。

「それだけじゃわかんない。もっと具体的に。」

んー、カッコいいとしか言いようがない。ライダーのデザインとか。あーあとストーリーがいいな。奥が深いっていうか。仮面ライダー1号2号とか初期のころはそんなでもなかったけど最近のはストーリー性も重視されてかなり凝ってると思う。こんなのちっちゃい子供にわかんのか？って時々思うし。一般的に仮面ライダー＝子供向け番組だと思ってる人多いと思うけど少なくとも俺はそうは思わないな。話の内容にしてもそうだし、主演はイケメン俳優だしな。視聴者が子供だけじゃないってことをわかってて作ってるな、あれは。ほんと子供から大人まで楽しめる番組だと思う。まあ俺は子供目線で見てるけどな。やっぱり仮面ライダーの話をする時は嬉しそうだった。

「なんか少しわかる気がする。じゃあ最後に、さとの選ぶBest of ライダーは？」
電王。

「今日はありがとう。またね。」

おお。

おわり

3-2 インタビューⅡ

場所：教室

日時：1/23(金) 14:00~14:15

インタビュー相手：さとし

尚木：インタビューするよ。

さとし：はい。

尚：映画好きだよ。

さ：大好き。

尚：どんなのが好き？アクションとか？スターウォーズ？

さ：スターウォーズもそうだけど映画全般だね。

尚：そういや部屋にちっこいライトセーバーあったよね。

さ：あーあれか。あーいう物集めんのもけっこう好きだなー。

尚：大地の部屋ってかわいいもの多いよね。時計とか。

さ：(少し照れくさそうに)そう言ってもらえると嬉しいな。

尚：話戻すけどどんくらい映画観んの？

さ：けっこう観るよ。映画館には月1~2くらいで行くかな。

尚：なんで映画好きなの？

さ：知らない。

尚：じゃあ他に何が好き？

さ：(少し悩んだ表情で)…んーテレビとかマンガが好き。クローズ最高だよ。全巻持っているし。

尚：じゃあテスト終わったら貸して。

さ：いいよ。絶対はまるから。

尚：なんか大智の持ってるものって全体的にかわいくない？そのシャーペンとか。

さ：んー、かわいいかどうか分かんないけどとにかく人とかぶりにたくない。人が持っていないものもいい。

尚：服も？

さ：かぶんのは絶対いやだな。

尚：大智っぽいな。

さ：何だそれ。まあいいや。

おわり

3-3 インタビューを終えて

一回目のインタビューで足りないところがあったので同じグループの人にアドバイスをもらって二回目のインタビューをした。インタビューなんてしたことがなかったので一回目はぎこちなさがあったけど二回目は自然にできたほうだと思う。一回目は相手の表情について注目していなかったので、二回目は表情についても意識した。

そうして分かったことは、彼は表情が豊かな人だとは言えないけど、彼の表情は正直だということだ。インタビュー中、仮面ライダーや映画など彼の好きなもののお話をするときには本当に楽しそうな表情で話し、またファッションなど彼がこだわっているもののお話になるととても真剣な表情になっていた。彼の表情を見ていると彼の気持ちが素直に表れているのが分かった。そして、彼にインタビューをしてから普段の会話の中でも彼の表情を見るようになった。たとえば、テストが終わった後の彼の表情はとても清々しい。テストの結果を聞いて、「全然できなかった」と答える彼の表情は明るく、全然できなかった人の表情とは思えなかった。彼はよく「終わったことは気にしない」と言うが、自分はズルズルと引きずってしまうので彼のような考え方ができる人はカッコいいと思う。最近では「終わったことは気にしない」と自分に言い聞かせることが多くなった。彼のように割り切って考えられる人間になりたいと思った。また、インタビューをしていて、こだわるところにはとことんこだわるという「さとしらしさ」が存分に出ていたと思う。そして、彼と話しているときはとても楽しかった。単純だけどそれが彼に友達が多い理由だと思う。

4. このクラスを振り返って

「人と向き合う」、「自分と向き合う」ことを真剣に考えるきっかけとなったのでためになった。